

2023 年 1 月 5 日
日本冶金工業株式会社

2023 年 社長年頭挨拶（要旨）について

当社では新年にあたり、社長の久保田 尚志より従業員に向けて年頭の挨拶をおこないましたので、その要旨を以下に記載いたします。

昨年の令和 4 年は激動の 1 年であった。中国のゼロコロナ政策は世界の製造業のサプライチェーンを寸断し、ロシアの軍事侵攻はエネルギー・資材価格の高騰を招いた。これらを受け、アメリカを始めとした各国の金利政策の転換もあり、我々の重要な経営指標である LME ニッケル価格や、対ドルの為替は急騰あるいは急落し、企業活動を大きく揺さぶることとなった。

この先、当社が今までどおり普通に過ごしていれば 2025 年の創立 100 周年を無事に迎えられる、という保証は何もない。冒頭で述べた世界の政治・経済、あるいは地政学的なリスク、さまざまな問題は今現在何一つ解決していない。昨年末には日銀の金利政策転換というサプライズもあったが、これまでは我々にプラスに働いてくれたものも、一気にマイナス要因に転ずるリスクもあることを念頭に置かなければならない。

しかしながら、どんなに環境が厳しく逆風に見えても、高い目標・志は決して忘れないで欲しい。「最大の危機は、目標が高すぎて達成できないことではない。目標が低すぎて、その低い目標を達成してしまうことだ」との名言もある。現在議論の最中である 2023-25 年の新中期経営計画、あるいはその先の 2030 年を展望するときの目標・志については、会社として高く掲げ、それぞれの部門、それぞれの現場でも、常にそれに向けたトライを諦めずに続けていただきたい。

昨年の明るいニュースはサッカーワールドカップでの日本チームの活躍だった。残念ながらあと一步で目標としていたベスト 8 の壁は突破できなかったが、優勝経験のある欧州の強豪国に囲まれた 1 次リーグを 2 度のジャイアントキリングで見事に 1 位で突破し、世界を驚かせた。たとえ厳しい組み合わせにあっても、チーム全員がベスト 8 の目標を断固として諦めなかったからこそであり、もしも目標を 1 次リーグ突破に下方修正していたら、おそらくそれすら叶わなかったのではないかな。

当社はこの数年、さまざまな課題を抱えつつも大きく前進してきた。川崎製造所は、昨年の新しい電気炉完成に続いて、現在新しいスリッター設備と冷間圧延設備の建設中であり、カーボンニュートラルもにらんだ設備の更新という点では、常に業界の先手を打ってきた。大江山製造所も、カーボンレスニッケル製錬に向けて大きな夢を持って果敢にチャレンジを始めている。

さらに、人材の面では若い世代や女性の活躍が大きく目立つようになってきた。ますます元気なベテラン、中堅とも力をあわせ、明るく風通しの良い社風を堅持して、どのような環境にあっても全員で良い 1 年にしていきたい。

代表取締役社長 久保田 尚志